まちの話題では、町内の行事や出来事を紹介しています。
広報に掲載できなかった話題は町ホームページに掲載しています。
【URL】https://www.town.kuriyama.hokkaido.jp
栗山町 検索
町ホームページのQRコード

里山で感じる自然の姿
ハサンベツ里山ネイチャーハイク

総合的な学習の時間「地域から学ぶ活動」の一環として、ふるさと自然体験教育事業の一つである「里山ネイチャーハイク」が6月15日、ハサンベツ里山で行われ、栗山小学校の4年生が参加しました。児童たちはNPO法人雨煙別学校のスタッフのガイドのもと、2グループに分かれて里山を散策。木の葉や虫、樹木などを観察し、自然と触れ合う貴重な体験となりました。

6月17日には、同事業に継立小学校の1・2年生18人が参加。児童たちはNPO法人雨煙別学校のスタッフから水中の虫や魚の捕まえ方を教わると、たも網（水中生物捕獲用の網）を持って川の中に入り、生きものを探索。ウグイやドジョウなどの魚のほか、トンボのヤゴやエゾアカガエルなどを捕獲し、水槽に入れて観察しました。
（左写真：継立小学校、右写真：栗山小学校）

ケアラーを支える仕組みづくりを
第1回ケアラー支援推進協議会

令和3年度第1回ケアラー支援推進協議会が6月22日、役場第1会議室で行われました。佐々木学町長が今回委員となる9人に委嘱状を交付し「孤立しやすいケアラーに対し、社会全体で支える仕組みづくりのため、委員の皆さんには忌憚（きたん）のないご意見をお願いします」とあいさつ。その後、ケアラーに関するアンケートの調査結果や、ケアラー支援推進計画について協議されました。

川を知り尽くした指導者目指して
川の指導者養成講座

川の指導者養成講座が6月19日、雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスで行われ、町民など約20人が参加しました。川の成り立ちや生きものについて深く理解した指導者の育成が目的。始めに流域生態研究所の妹尾優二所長が、川に学ぶ体験活動について講義。その後、参加者は雨煙別川に移動し、たも網の使い方や川の歩き方などを学びました。

サツマイモを通した食育
小学校農業体験学習

年間を通した自然との触れあいや地域交流を目的とした農業体験学習が、5月20日に継立小学校、6月8日に角田小学校でそれぞれ行われました。本学習は、栗山町・由仁町の若手農家で構成される「そらち南さつまいもクラブ」の協力のもと今年度初めて実施。子どもたちは、会員の田中誠司さん（湯地）の農園で同クラブが開発したブランド品「由栗（ゆっくり）いも」の植え付けを体験し、秋の収穫に向けた作業を楽しく行いました。参加した角田小学校4年生の佐藤夏純さん、田中舞桜（まお）さんは「苗の角度を斜めに合わせたり奥まで植え付けるのが難しかったですが、とても楽しかったです。大好きなサツマイモを収穫する日が楽しみです」と笑顔で話していました。
（左写真：継立小学校、右写真：角田小学校）

食の大切さ 農業通じて理解
小学校田植え体験学習

栗山小学校の5年生72人が5月27日、長尾康司さん（富士）の水田で田植えを行いました。本学習は、農業体験を通じて子どもたちに食の大切さを理解してもらう総合学習の一環。長尾さんの水田での農業体験は今年で15年目となります。児童たちは長尾さんから苗の植え方を教わると、一人ずつ苗の入ったバケツを持ち、裸足で田んぼの中へ。冷たく、足が動かないことから始めは苦戦していましたが、徐々に慣れていき、約1時間かけて苗を植えました。6月12日には、土曜授業の一環で、角田小学校の全校（つぶり）児童が田植えを実施。児童たちは有限会社 粒里の田んぼで2人1組になって、苗を運びながら丁寧に植えていき、最後は6年生の友延皇二（こうじ）さんが代表して水門を開き、水を引き入れました。
（左写真：栗山小学校、右写真：角田小学校）